

戦後 70 年間 私の心に詰まっている思い 「中国残留邦人」 種子島秀子さんの体験を聞く

戦争中、ごく普通に暮らしている‘わたしたち’に、実際には、どのようなことが起きていたのでしょうか？
1944 年春、当時 7 歳で家族とともに「廟嶺京都開拓団」として「満洲」(中国東北部)へ渡り、戦後 1990 年
まで帰国することができなかった種子島秀子さんにお話を伺います。戦後 70 年が経過し、戦争体験者のお話を直接聞く機会は、残念ながら少なくなりました。貴重な機会です。ぜひご参加ください。

■日時:2016 年 1 月 31 日(日)13 時～15 時 30 分

(開場:12 時 30 分)

■会場:三鷹駅前コミュニティ・センター(裏面に地図あり)

地下1階 大会議室

三鷹市下連雀 3-13-10(JR 三鷹駅南口から徒歩7分)

■参加費:無料／定員:70 名(予約不要)

■主催:三鷹市・NPO 法人中国帰国者の会

(問合せ先:中国帰国者の会事務局 070-5588-7827)

※当日は、種子島秀子さんが日本語でお話し、二世が中国語で通訳します。

日本語が母語の方も、中国語が母語の方も、ぜひご参加ください。

※当天，种子岛秀子女士用日语演讲，有二世在旁边作同时翻译。所以无论您平时是用日语生活还是用汉语生活的，在语言上都不会有障碍。敬请参加。

在战争中，日本平民的普通生活发生了急剧的变化。当时都发生了哪些事情呢？
1944 年春天，她当时才 7 岁就随着[苗岭京都开荒团]远赴[满洲](中国东北部)，终战后也无法归国，
直到 1990 年才得以实现回归祖国愿望的种子岛秀子女士。战后 70 年的今天，我们邀请她来讲述战争
体验。遗憾的是能直接临听到战争体验的机会已经越来越少，这是了解 70 年前的战争实情的绝佳机
会，务请各位参加此次演讲会。

战后 70 年 我的心中所想

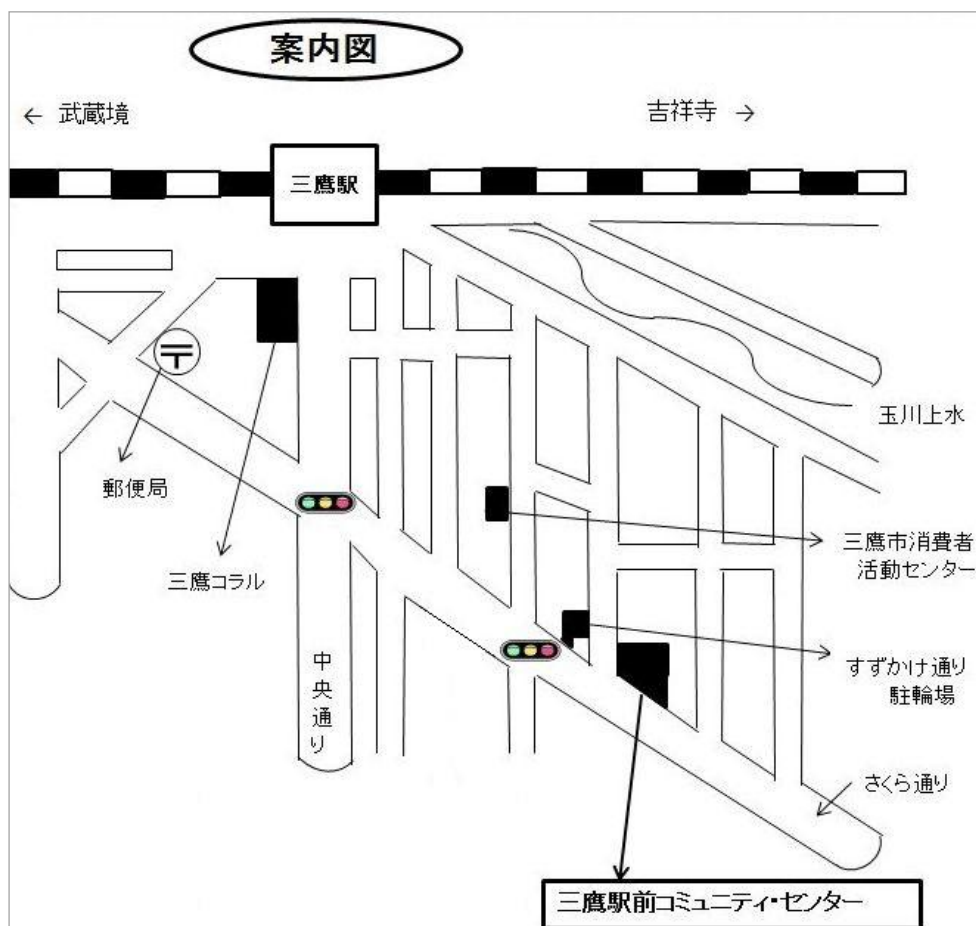
「遗华日本人」

听种子岛秀子女士的亲身体验

会場：三鷹駅前コミュニティ・センター 地下1階 大会議室

■最寄駅:JR 総武線・中央線 三鷹駅 南口より徒歩7分

■住所:三鷹市下連雀 3-13-10 / TEL:0422-71-0025 (※駐車場はありません)



★三鷹市中国残留邦人等地域生活支援事業★

三鷹市では NPO 法人中国帰国者の会に委託し、「中国残留邦人」等の支援の要となる地域住民の理解を深めるため、映画上映や写真展、講演会や当事者の体験を語る会などを開催しています。また、当事者同士の日常生活の相談・交流の場として、毎月1回「三鷹 憩いの家」を開催しています。

★「中国残留邦人」とは★

日本は、戦前戦中、多くの人々を「満洲」(中国東北部)に送り出しました。国から地方に送出数が割り当てられ、教員や警察、町の有力者などの勧めによって「満洲移民政策」は実施されました。そうして渡った先に待っていたのは、ソ連軍侵攻も知らされず、逃避行を生き延びても帰国策がとられることなく放置されるという現実でした。長年、中国の地で、日本の加害と被害を背負い、ようやく帰国した後も、言葉の壁や生活基盤のなさは自己責任とされました。多くの国賠訴訟を経て 2008 年に新支援法が施行されましたが、長い年月の間、放置されてきたことから、二世、三世にも問題が引き継がれている現状があります。